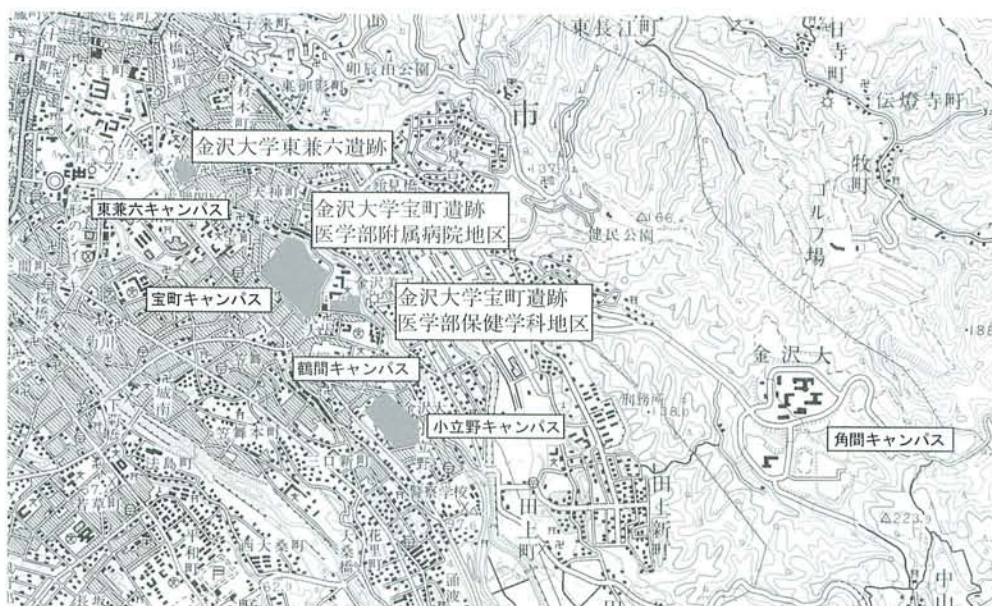


4. 活動報告

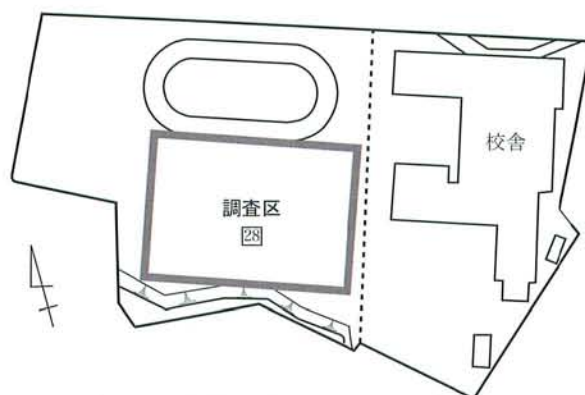
(1) 埋蔵文化財調査一覧

	NO.	遺跡名	原因	期間	時代	遺構	遺物
1997年度	1	角間遺跡一乗寺跡地点 (2444㎡)	学生寮建設工事	1996.11.26～ 1998.1.22	縄文, 古墳, 平安～鎌倉	平安～鎌倉(掘立柱建 物、柵列、炉、礎石な ど山間寺院跡)	縄文(土器、石器) 古墳(須恵器) 平安・鎌倉(土師・須恵器、灰釉 陶器、越州窯青磁、白磁、龍泉窯青 磁、鉄製品、銅製品、玉未製品、髹 羽口など)
	2	角間遺跡第2調整池南地点	開発工事(分布調 査)	1997.10.9	縄文, 江戸		縄文(土器)江戸～明治(陶磁器)
	3	宝町遺跡医学部附属病院地区 [切廻し] (412㎡)	配管埋設工事	1997.11.4～ 1998.2.27	江戸, 明治	江戸(土坑、溝)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品)
1998年度	4	宝町遺跡医学部附属病院地区 病棟Ⅰ・精神科病棟Ⅰ地点 (6926㎡)	建て替え工事	1998.3.23～ 9.9	縄文, 弥生, 鎌倉～室町, 江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 地 下室, 廃棄坑など)、明 治(病院建物)	縄文(土器、石器) 弥生(土器) 鎌 倉～室町(陶器) 江戸～明治(陶 磁器, 金属製品, 木製品, 石製品, 漆製品, ガラス製品, 瓦)
	5	宝町遺跡医学部・医学部附属病 院地区[薬学部前・MR-CT棟前・ 西外来診療棟西]	土質調査(立会)	1998.4.20		確認されず	なし
	6	宝町遺跡医学部保健学科地区 校舎Ⅰ地点 (120㎡)	校舎新営工事 (試掘)	1998.5.22～ 5.26	江戸, 明治		江戸～明治(陶磁器)
	7	宝町遺跡医学部保健学科地区 校舎Ⅰ地点 (2382㎡)	校舎新営工事	1998.5.27～ 10.26	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 廃 棄坑など屋敷跡)、明 治(金沢監獄)	江戸～明治(陶磁器, 石製品, 瓦, 砥石)
	8	宝町遺跡医学部附属病院地区 包み込みの森98地点 (361㎡)	植栽工事	1998.8.24～ 10.30	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 地 下室, 廃棄坑など)、明 治(病院建物)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石 製品, 瓦)
	9	宝町遺跡医学部附属病院地区 中央設備室地点 (1220㎡)	建て替え工事	1998.9.30～ 12.16	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 地 下室, 廃棄坑など)、明 治(病院建物)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石 製品, 瓦)
	10	宝町遺跡医学部保健学科地区 [1号館周囲]	校舎新営機械設 備工事	1998.10.2～ 10.29	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器, 石製品)
	11	角間遺跡第2調整池南地点	開発工事(試掘)	1998.10.19～ 11.6	縄文, 平安	柱穴	縄文(土器)平安(土師・須恵器)
	12	宝町遺跡医学部[中央施設棟 前, 十全講堂前, 薬学部実験研 究棟前, 遺伝子実験施設棟横, 動物実験施設棟, 解剖棟横, R1 総合センター前]	配管埋設工事 (立会)	1998.11.17～ 1999.1.21		確認されず	なし
	13	角間遺跡第2調整池南地点[南 方]	埋文発掘事務所 設置工事	1999.2.5		確認されず	なし
1999年度	14	宝町遺跡医学部附属病院地区 病棟Ⅱ地点 (2630㎡)	建て替え工事	1999.2.15～ 6.23	平安, 江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 地 下室, 廃棄坑など)、明 治(病院建物)	平安(須恵器) 江戸～明治(陶磁 器, 金属製品, 木製品, 石製品, 漆 製品, 瓦)
	15	宝町遺跡医学部保健学科地区 校舎Ⅰ基幹整備・校舎Ⅱ地点 (2276㎡)	校舎新営工事	1999.2.16～ 7.1	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 廃 棄坑など)、明治(金沢 監獄)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石 製品, 瓦)
	16	角間遺跡第2調整池南地点 (5090㎡)	第2調整池建設工 事	1999.2.17～ 6.30	縄文, 弥生, 平安, 鎌倉～ 室町, 江戸	縄文(土坑, 遺物集 中)、弥生(土坑)、平 安～鎌倉(墓壇, 柱穴な ど)	縄文(土器、石器) 弥生(土器) 平 安(土師器, 須恵器, 石帯, ガラス 玉) 鎌倉～室町(陶器) 江戸(陶 磁器)
	17	宝町遺跡医学部附属病院地区 [つくしんぼ保育園前]	フェンス取付工 事(立会)	1999.3.2		確認されず	なし
	18	宝町遺跡薬学部[薬学科実験研 究棟前]	消火栓埋設工事 (立会)	1999.3.24		確認されず	江戸～明治(陶磁器)
	19	宝町遺跡医学部附属病院地区 [看護婦宿舎裏]	配管埋設工事 (立会)	1999.3.29～ 30		確認されず	
	20	宝町遺跡医学部保健学科地区 [建物周囲道路]	校舎新営機械設 備工事	1999.4.29～ 8.13	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	21	宝町遺跡医学部附属病院地区 [MR-CT棟横]	配管埋設工事 (立会)	1999.5.6～ 5.10		確認されず	江戸～明治(陶磁器)
	22	角間キャンパスⅡ期工事地点	開発工事(分布調 査)	1999.7.27, ～29		確認されず	なし
	23	宝町遺跡医学部グラウンド地 点 (286㎡)	排水処理槽設置	1999.8.2～ 8.20	江戸, 明治	江戸(溝)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 木 製品, 石製品, 瓦)
	24	角間キャンパスⅡ期工事地点	開発工事(分布調 査)	1999.8.6～ 8.10		確認されず	なし
	25	宝町遺跡医学部・薬学部[十全 講堂前, 薬学部実験研究棟前, 遺伝子実験施設棟付近, 動物実 験施設南東部, 解剖棟付近中 庭, R1総合センター付近, テニ スコート横, グラウンド]	配管埋設工事(立 会)	1999.8.18 ～2000.3.2	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器, 漆製品, 瓦)
	26	宝町遺跡医学部附属病院地区 [病院玄関東]	配管埋設工事 (立会)	1999.10.20～ 10.23		確認されず	江戸～明治(陶磁器)

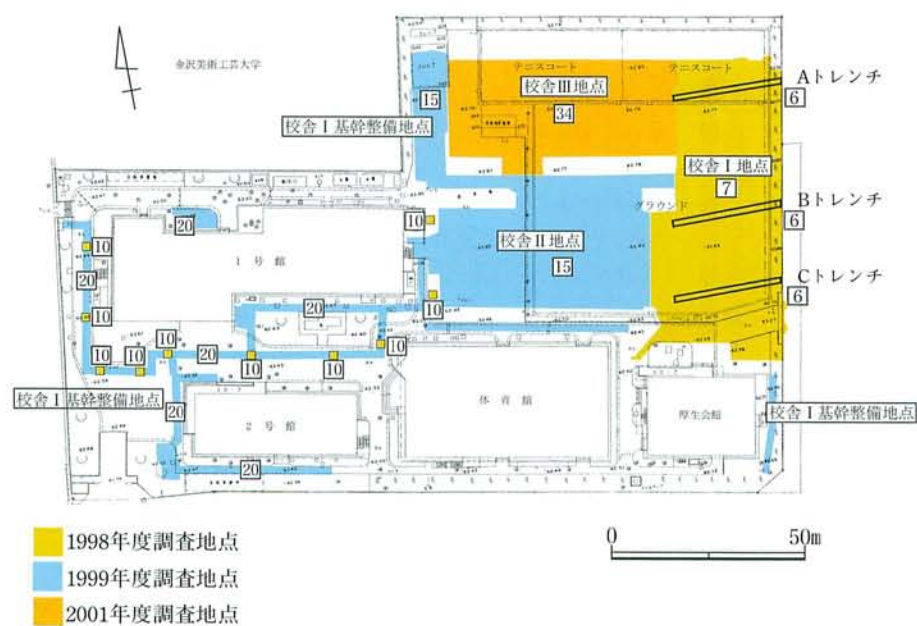
	NO.	遺跡名	原因	期間	時代	遺構	遺物
2000年度	27	宝町遺跡医学部附属病院地区 精神科病棟Ⅱ地点 (420㎡)	建て替え工事	2000.2.23～ 4.26	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 地下室, 廃棄坑など) 明治(病院建物)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 瓦)
	28	東兼六遺跡	体育館建設工事	2000.5.31～ 6.5		確認されず	江戸～明治(陶磁器, 瓦)
	29	宝町遺跡医学部[中央施設棟 横, 玄関横]	配管埋設工事 (立会)	2000.6.19～ 7.27		確認されず	江戸～明治(陶磁器, 瓦)
	30	宝町遺跡医学部附属病院地区 地下油槽地点 (150㎡)	建て替え工事	2000.7.11～ 8.17	江戸, 明治	江戸(地下室, 廃棄坑)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 瓦)
	31	宝町遺跡医学部附属病院地区 [看護婦宿舍裏]	配管埋設工事 (立会)	2000.8.14～ 8.16		確認されず	なし
2001年度	32	宝町遺跡医学部附属病院地区 [新病棟裏]	配管埋設工事 (立会)	2001.4.9～ 5.4	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	33	宝町遺跡医学部附属病院地区 受水槽地点 (260㎡)	受水槽設置工事	2001.4.24～ 5.7	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	34	宝町遺跡医学部保健学科地区 校舎Ⅲ地点 (1581㎡)	校舎新営工事	2001.4.10～ 6.29	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 廃 棄坑など) 明治(金沢監獄)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 瓦, 鉄砲玉)
	35	宝町遺跡薬学部[薬学科実験 研究棟前]	配管埋設工事 (立会)	2001.5.30～ 6.13	江戸	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	36	宝町遺跡医学部[受水槽前]	配管埋設工事 (立会)	2001.6.15～ 6.19	江戸	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	37	宝町遺跡薬学部[薬学科実験 研究棟前]	配管埋設工事 (立会)	2001.6.30～ 7.5	江戸	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器, 木製品)
	38	宝町遺跡医学部附属病院地区 中央設備室Ⅱ地点 (351㎡)	建て替え工事	2001.7.2～ 7.27	江戸, 明治	江戸(建物跡, 井戸, 地下 室, 廃棄坑など)、明 治(病院建物)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 木製品, 漆製品, 瓦)
	39	宝町遺跡医学部・薬学部[薬草 園東沿い]	配管埋設工事 (立会)	2001.7.12～ 7.24	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	40	宝町遺跡医学部[受水槽前]	北陸電力工事 (立会)	2001.7.25～ 7.26	江戸, 明治	江戸(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
	41	宝町遺跡医学部附属病院地区 [つくしんぼ保育園前]	融雪装置埋設工 事 (立会)	2001.9.3～ 9.20		確認されず	江戸～明治(陶磁器)
	42	宝町遺跡医学部[駐車場]	配管埋設工事 (立会)	2001.12.22, 2002.2.11～ 2.26	江戸	江戸(溝)	江戸～明治(陶磁器, 木製品, 漆 製品)
	43	宝町遺跡医学部附属病院地区 中央診療棟地点 (1758㎡)	建て替え工事	2002.7.24～ 9.30	江戸, 明治	土坑	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 漆製品, 瓦)
2003年度 発掘調査なし							
2004年度	44	宝町遺跡医学部解剖実習棟地 点 (1492㎡)	校舎新営工事	2004.11.09～ 2005.3.31	江戸, 明治	江戸(溝, 土坑, 井戸) 明治以降(校舎建物、 土坑)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 漆製品, 瓦)
	45	宝町遺跡医学部[駐車場]	配管埋設工事 (立会)	2004.12.29～ 2005.1.10		確認されず	なし
2005年度	46	宝町遺跡医学部立体駐車場地 点 (3767㎡)	仮設立体駐車場 工事	2005.7.7～ 12.20	江戸, 明治	江戸(溝, 土坑, 井戸, 道路) 明治以降(溝, 道路, 土 坑)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 漆製品, 瓦)
	47	宝町遺跡医学部研究棟[南側 花壇] 遺伝子実験施設棟[東 側] 十全講堂(東側)	配管埋設工事 (立会)	2005.11.3～ 11.6 12.6～12.17	江戸, 明治	明治(井戸)	江戸～明治(陶磁器)
2006年度	48	平和町附属学校地点	校舎増築工事 (試掘)	2006.5.24		確認されず	なし
	49	宝町遺跡医学部附属病院地区 渡り廊下地点 (約270㎡)	渡り廊下新営工 事	2006.5.25～ 6.14	江戸, 明治	江戸(溝, 土坑, 道路) 明治以降(溝, 土坑)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 瓦)
	50	宝町遺跡医学部附属病院地区 外来診療棟地点 (約96㎡)	病棟新営工事	2006.6.19～ 6.22	江戸, 明治	江戸～明治(土坑)	江戸～明治(陶磁器)
2007年度 発掘調査なし							
2008年度	51	宝町遺跡医学部地区つくしん ぼ保育園地点 (約450㎡)	園舎新営工事	2008.8.22～ 11.13	江戸, 明治	江戸(溝, 土坑, 道路) 明治以降(溝, 土坑)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品, 瓦)
2009年度	52	宝町遺跡附属病院地区総合研 究棟地点 (約530㎡)	校舎新営工事	2009.8.19～ 9.18	江戸, 明治	江戸(土坑) 明治以降(土坑)	江戸～明治(陶磁器, 金属製品, 石製品)



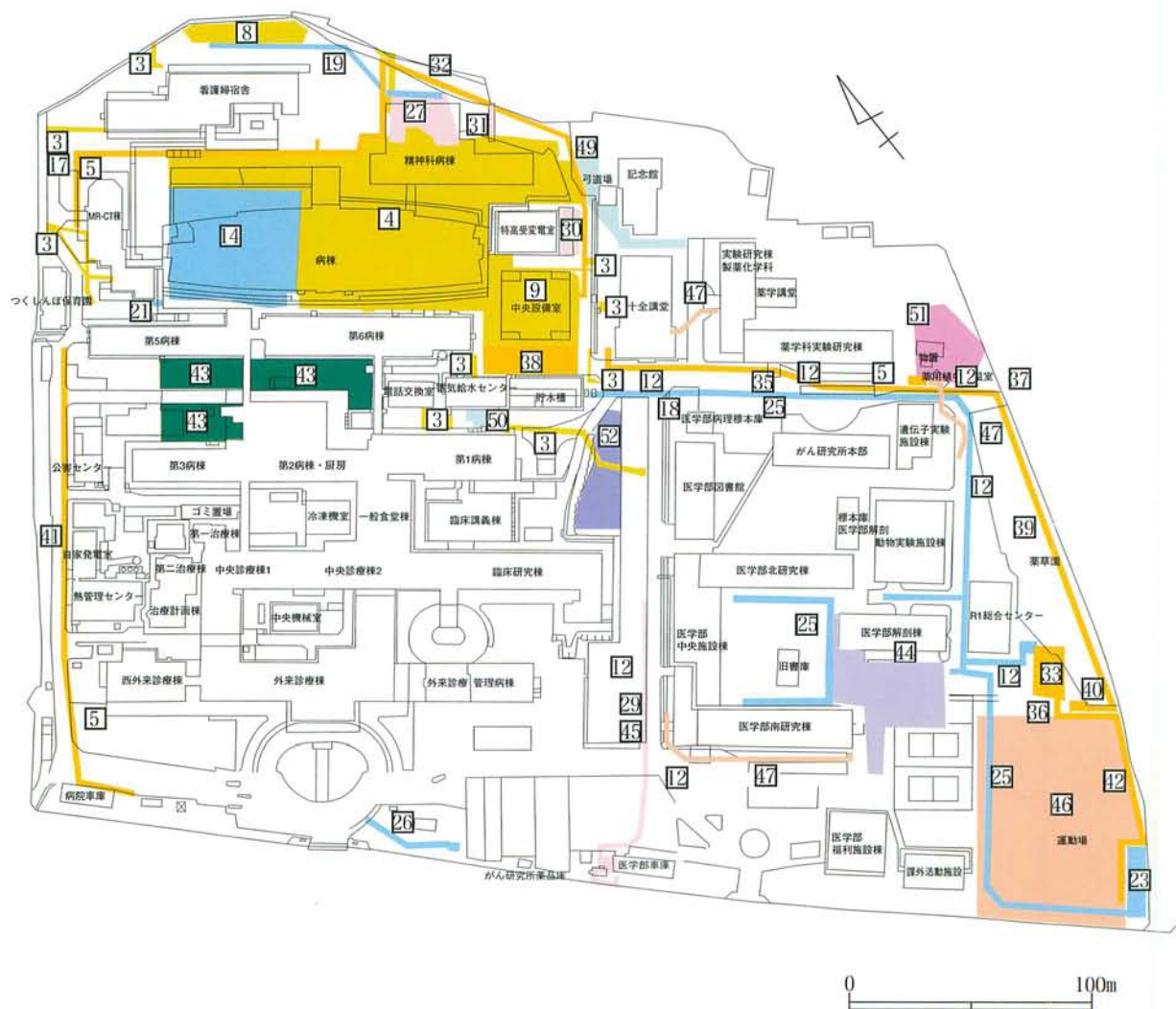
第1図 金沢大学キャンパス位置図 (1/50000)



第2図 東兼六遺跡調査地点 (1/2000)
(附属特別支援学校)

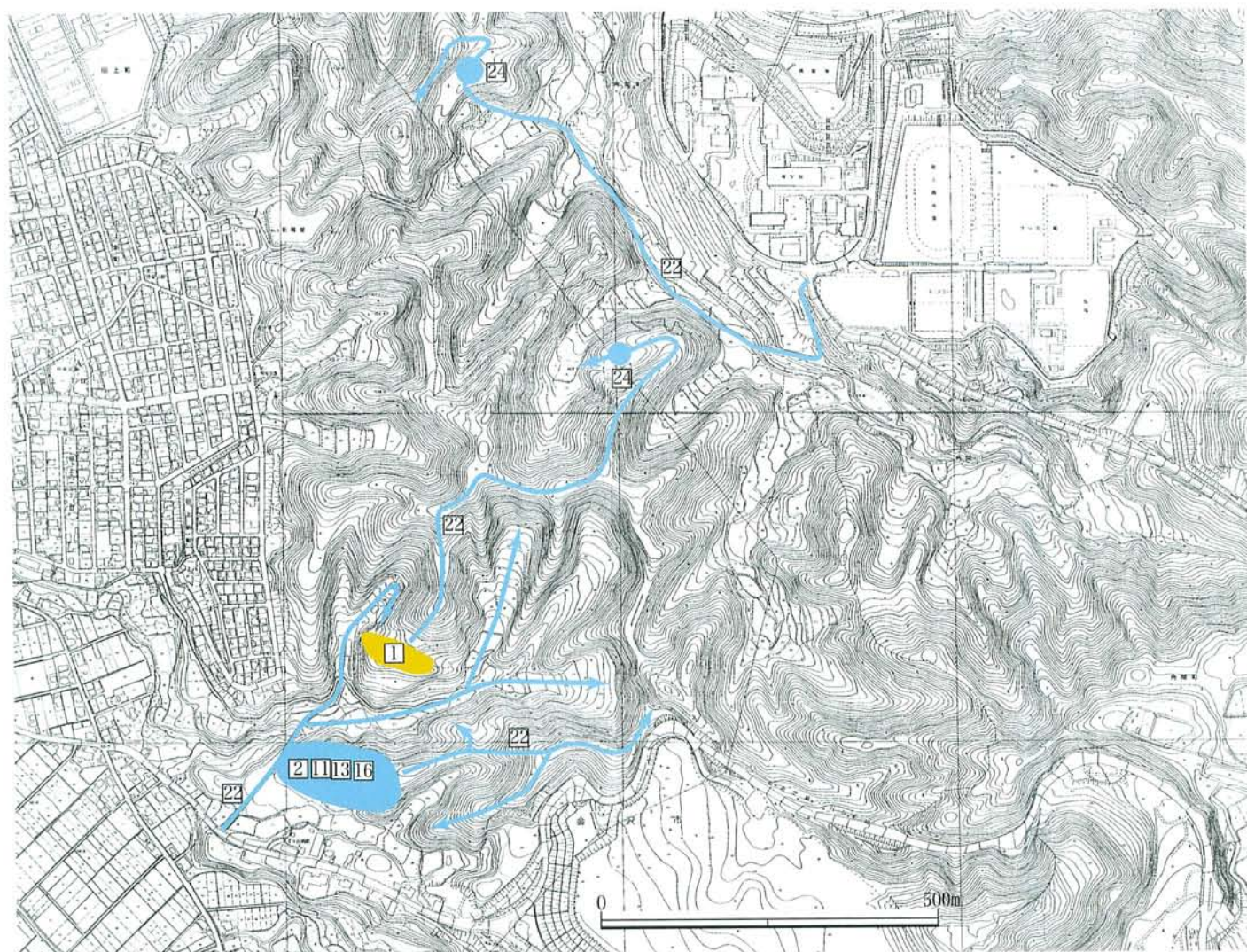


第3図 鶴間キャンパス調査地点 (1/2000)



- 1997, 1998年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究1』参照)
- 1999年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究2』参照)
- 2000年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究3,4』参照)
- 2001年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究3,4』参照)
- 2002年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究5』参照)
- 2004年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究7』参照)
- 2005年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究8』参照)
- 2006年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究9』参照)
- 2008年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究10』参照)
- 2009年度調査地点 (『金沢大学文化財学研究10』参照)

第4図 宝町キャンパス調査地点 (1/3000)



- 1997年度調査地点（『金沢大学文化財学研究1』参照）
- 1999年度調査地点（『金沢大学文化財学研究2』参照）

第5図 角間キャンパス調査図（1/10000）

(2) 講演会・研究会記録

共催団体：古代学協会北陸支部、金沢大学文学部考古学研究室

対 象：研究者、学生、一般

2007 年度

6 月 2 日 平成 19 年度金沢大学考古学大会

秦嶺「山東桐林遺跡（竜山文化）の発掘調査」

ナン・チーチー・カイ「ミャンマー青磁碗の分類—トワンテ窯跡群出土品を中心に—」

垣内光次郎「中近世トイレ考古学のスズメ」

八木聡「JICA 活動報告 —エルサルバドルから見た国際協力—」

11 月 10 日・11 日 第 14 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会

宮下佐江子「古代オリエント博物館収蔵テッセラについて」

津村眞輝「シリア出土のローマコイン—ミシヨルフェ出土一括コインから—」

木下亘・ト部行弘・清水昭博・鈴木裕明・宮下佐江子・郭東錫・関内勲・関内賛・権江美「三次元計測技術を用いた新羅王陵石像彫刻の総合的比較研究—科学研究費基盤研究 B（平成 18 年度成果報告）」

関内賛「慶州 統一新羅時代王陵の石彫像にみられる西域的要素」

権江美「統一新羅期に於ける石製獅子像の起源に就いて」

田辺美江「史君墓石槨の動物たち」

春田 晴郎「近年のゾロアスター教研究の動向とパルティア時代」

堀 暁「考古学から見たプロト・ゾロアスター教」

前田耕作「ヘレニズム夜話」

佐々木花江・佐々木達夫「イスラーム陶器からみる中央アジアの共通性と地域性」

Sabah Abboud Jasim Hellenistic Discoveries at Dibba, Emirate of Sharjah – United Arab Emirates

田辺 勝美「平山コレクション半跏思惟菩薩座像について」

小谷伸男「新出のガンダーラ説話浮彫図—アマラーデーヴィの物語—」

岩井俊平「バーミヤーン初期窟の壁画」

小山満・川崎建三・金内新司・水流宏幸・福本一茂・石塚健治

「創価大学ダルヴェルジン・テパ DT25, 2006-07 発掘調査報告」

芳賀 満・古庄浩明・相馬拓也・宇野隆夫

「ウズベキスタン共和国スルハンダリア州カンピール・テパ第 2 次発掘調査速報（2007 年度）」

辻 成史「エリュデニズのビザンティン遺跡編年の試み（2）建築編」

岡田保良「続々・ガダラのドーミカル・ヴォールト—シリアの遺構を中心に—」

江添誠「トランス・ヨルダン地域におけるキリスト教会堂建設活動」

深見 奈緒子「ラッカージャズイーラ地方の拠点」

12 月 5 日 古代学協会・金沢大学考古学・金沢大学埋蔵文化財調査センター共催研究会

「遺跡出土陶磁器研究の多様性」

佐々木達夫「ジュルファール遺跡の歴史的意義について」

堀井あけみ「イギリス発掘のジュルファール遺跡出土陶磁器の分類」

佐々木花江「ジュルファール遺跡の陶磁器が語る海上貿易」

垣内光次郎「遺跡出土陶磁器の組成に関する研究法—陶磁器破片から何を読み取るか—」

酒井 中「陶磁器薄片分析から何が分かるか」

小川光彦「中国陶磁器の編年研究の方法と課題」

ナン・チーチー・カイ「ミャンマー青磁の種類と分類」

2008 年 1 月 31 日 日本オリエント学会・金沢大学考古学・金沢大学埋蔵文化財調査センター共催講演会

「中央アジアの遺跡と陶器」

高浜 秀「イラン西北部の遺跡踏査」

グバエフ・アナゲルディ「文明を写し出すトルクメニスタン」

堀 暁「トルクメニスタンの遺跡と発掘」

バシモヴァ・ヌルゴゼリ・サリュエヴナ「トルクメニスタンのイスラーム陶器」

亀井明徳「カラコルム遺跡出土の中国陶器」
森 達也「アルダビール廟の中国陶器」
巽 善信「東イランのイスラーム陶器―呼び継ぎされた1例―」
佐々木花江「ウズベキスタンのイスラーム陶器」
前田耕作・山内和也「バーミヤーン遺跡の調査と保存修復」
金原正明「花粉分析からみるバーミヤーンの植生」
佐々木達夫・野上建紀「バーミヤーン出土のイスラーム陶器」
小泉一人・荒井章司・田村明弘「中央アジア施釉陶器の理化学分析」

2008 年度

6月7日 平成20年度金沢大学考古学大会

桜井秀雄「長野県の考古学―近年の調査・研究の動向―」
勝俣竜哉「御殿場市の文化財行政（世界遺産編）」
垣内光次郎「珠洲出土の木製塔婆」
高見哲士「春秋戦国時代における北方系小型飾金具」
ナン・チーチー・カイ「マルタバン壺とシン・オー」
八木 聡「北方系文化の埋葬習俗―玉皇廟遺跡を中心に―」

7月10日 平成20年度第1回 金沢大学考古学研究室公開研究会（金沢大学埋蔵文化財調査センター共催）

酒井 中「オセアニア先史時代土器の地域性」
八木 聡「ユーラシア青銅器の諸問題」
垣内光次郎「硯の地方史」
小川光彦「海底遺跡の遺物散布状況」
佐々木達夫「砂漠遺跡の遺物散布状況」
高橋悠里「砂漠遺跡で採集されたヨーロッパ陶磁器」
ナン・チーチー・カイ「博多遺跡出土のミャンマー陶磁器」

8月23日 平成20年度第2回 金沢大学考古学研究室公開研究会（金沢大学埋蔵文化財調査センター共催）

酒井 中「石垣と刻印」
庄田 知充「金沢惣構」
垣内光次郎「中世石硯」
小川 光彦「中国スタイル碇石の分類」
八木 聡「出土遺物による中国玉皇廟遺跡の検討」
ナン・チーチー・カイ「沖縄出土の東南アジア陶磁」
中村 徹也「随想『鹿鳴―弥生人の描いた鹿―』」
佐々木達夫「温暖化と砂漠緑化と遺跡消滅」

11月15日・16日 第15回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会

長谷川 奏「エジプト・西方デルタ調査プロジェクト―調査の目的―」
ラヒリヤ“Encounters in Cultures”
川崎 建三「ダルヴェルジン・テパの土器について～新出資料を中心に」
芳賀 満、古庄浩明、内記理「ウズベキスタン共和国カンピール・テパ第3次発掘調査速報・2008年度」
ジョン・ハート“Conservation and management of earth archaeological sites in Central Asia”
石綿 美江「人物・葡萄收穫文壺の文様と年代」
小谷 伸男「ガンダーラ浮彫図の新解釈：末羅力士の移石説話」
春田 晴郎「シリア～南東アナトリアにおけるアラム語および東方キリスト教の現況」
西藤 清秀「パルミラの墓に見る辟邪的要素」
佐々木花江・佐々木達夫“Nomadic occupations in the desert”
辻 成史「風景―topography―物語 聖地の成立と記述」
深見奈緒子「ラールのミフラーブグジャラト製大理石細工の環インド洋世界の伝播」
岡田保良「イランファールス地方踏査速報」

2009年1月31日 金沢大学公開講座 百万石の城下町―江戸時代の寺町と寺院の形成―

佐々木達夫「寺町と寺院の形成と保存活用」
宮田進一「越中の寺町と寺院」

善端 直「能登の寺町と寺院」
福塚正浩「金沢の寺町と寺院―東山と寺町―」
垣内光次郎「金沢の寺町と寺院―小立野の発掘―」
田嶋正和「加賀の寺町と寺院」
佐々木花江「寺町を考える（意見交換）」

2009 年度

6 月 6 日 平成 21 年度金沢大学考古学大会

渡辺 芳郎・金田 明大「鹿兒島県日置市美山苗代川窯跡群―分布調査・測量調査・地下探査―」
前田 清彦「方形周溝墓の造墓計画―群構成の歴史的意義―」
原田 幹「良渚文化「耘田器」の使用痕と機能」
野上 建紀「チョコレートカップの変遷と流通」
中野 雄二「近世波佐見窯業の展開」
西野 範子「ハノイ・タンロン遺跡の層位」
内堀 信雄「岐阜城の空間認知―文献・絵図・考古資料を用いて―」
伊藤 伸幸「中米のタスマル遺跡発掘調査」

7 月 4 日・5 日 第 16 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会

宮下佐江子「新羅王陵の石造物にみられる西方的要素」
津村眞輝子「パルミラにおけるコインの流通」
小谷 伸男「ガンダーラにおける末羅力士移石説話図（続編）」
長谷川 奏・恵多谷雅弘「エジプト・西方デルタ調査―2008 年度の研究成果から―」
芳賀 満「ヘレニズム図像の東方への伝播―中央ユーラシアから中国への仏教初伝の事情」
岩井俊平「パーミヤーンの十字型ストゥーパ」
Nargis Khojaeva "The Avesta and Takht-Isangin"
泉拓良「フェニキア的・カルタゴ的考古学属性の広がり（予察）」
春田 晴郎「東京国立博物館所蔵こぶ牛文様装飾皿の紹介」
西藤清秀「古代パルミラ地下墓の大衆化」
宮坂朋「ローマのヘラクレス」
石綿 美江「ダルベルジン・テバ遺跡出土女性像頭部」
辻 成史「11 世紀のマケドニア朝と東地中海におけるその活動の跡」
佐々木花江・佐々木達夫「タシケントのイスラーム陶器」
吉武隆一「古代都市フィガリアの研究小史」
深見奈緒子「ペルシア湾岸調査から―建築文化におけるアラブ的、イラン的、インド的性質とは」
山下王世「トルコ史テーゼと建築」
三宅理一「エチオピア・ティグレ州グンダ・グンド修道院の成立事情と建築的特質」
岡田保良「西アジアの世界遺産問題」

2010 年 1 月 7 日 金沢大学・台湾大學 研究交流講演会

謝 明良「葉文皿について―台湾高雄県左營清代鳳山県旧城聚落遺跡出土の青花葉文皿を中心として―」
坂井 隆「世界文化遺産の問題点―東南アジアを中心に」
STOLYAROVA・SMAGULOV "New Investigations and discoveries at Sauran city in South Kazakhstan"
田辺 勝美「アフガニスタン北部出土の二仏並存図について」
高浜 秀「中央ユーラシアの複合弓について」
佐々木花江「世界遺産候補カタル国ズバラ遺跡の現状」
佐々木達夫「アフガニスタンの世界遺産パーミヤーンの現状」

1 月 30 日 金沢大学公開講座 日本海の海上交通史と水中考古学

佐々木達夫「考古学から日本海に沈む歴史を探る」
田嶋正和「橋立・塩屋・瀬越と北前船の里資料館」
垣内光次郎「内灘砂丘に埋もれた海岸の遺跡と日本海交易」
佐々木花江「海底から引き揚げられた陶磁器と金沢の城下町発掘品」
小川光彦「沈没船と積み荷の海底調査風景」

(3) 調査概要

① 宝町遺跡医学部地区つくしんぼ保育園地点

調査面積 約 450 m²
調査期間 2008 年 8 月 22 日～11 月 13 日
検出遺構 江戸時代から明治時代の溝、土坑
近現代の建物遺構、ゴミ穴

金沢大学附属病院敷地内西側にあるつくしんぼ保育園が新築移転することになり、発掘調査がおこなわれた。調査地点は、医学部地区内の金沢美術工芸大学側通用門の東側に位置し、砂利敷き、一部アスファルト舗装の駐車場となっていた場所である。大正 13 年の学内建物配置図では小山が描かれており、昭和 6 年の図では空き地であった。昭和 28 年から薬草園となり、昭和 32 年以降、薬学部研究棟や温室が建てられ、平成初年まで使用されていた。

アスファルトの下は碎石が 30 センチほど敷かれ、遺物の混じらない砂や大小の石が多く混じる土の整地層が確認された。この下に大学時代のゴミを含む土が、低地になっている部分に盛られていた。大学時代の建物が取り壊されたときには地表面が削平整地されていたが、地山を掘り下げた建物の基礎の下部を確認することが出来た。昭和 34 年から 38 年のころと思われる校舎図に記されてい



経王寺北側溝や道路、大学時代の建物基礎が見える

る動物室、生産農具庫、物置、温室である。生産農具庫の建物基礎部分は、溝状に掘ったくぼみにぐり石をつめ、その上に建物を支える長方形の笏谷石が列状に並べられたようだ。

大学時代のゴミ穴の多くは建物外の空き地に集中し、深さ2メートル以上の円形や方形に掘られたものもあった。長期にわたり廃棄場として使用された様子がゴミの堆積の状況からわかり、陶磁器の他にガラス製実験道具や器具片、珐瑯製洗面器、珐瑯製ヤカンといった昭和期の製品が大量に出土した。時代のわかる陶磁器の遺物のうち、大正12年に金沢医学専門学校から改組になった「金澤醫科大學附属醫院」の名の入った皿や井の蓋などは発見されているが、この前身にあたる金沢医学専門学校時代のものは2-3点のみしか見つからなかった。昭和4年に金沢医科大学薬学専門部校舎が発掘地の隣接地に建てられているから、この頃より後になってこの場所にごみ穴が掘られ始めたことが推測される。

上面を後世の削平や整地で失われた地山に残る痕跡には、近世の道路遺構、溝、植栽痕やゴミ穴も含まれる。特に、調査地をほぼ東西にまっすぐ横切る溝の検出されたことが注目される。溝は地山を台型、部分的にはV字型に掘っており、幅約120CM、深さ90CM程である。これは経王寺外側をめぐる溝の北側溝にあたり、立体駐車場地点、解剖実習棟地点で確認された経王寺の溝の続きである。立体駐車場地点で検出された経王寺南側の溝から測ると、延宝年間の絵図に書込まれている「八十壺間」という長さで合致する。



経王寺北側溝の堆積状況

溝の中からは陶磁器などの遺物は検出されず、黒色の細かく粘性のある土と、地山の黄色い粘土が細かなブロック状に含まれる黒色土の層の堆積が見られた。堆積土中には中型の石が見られたが砂の堆積はなく、水の流れる状況での堆積ではないようだ。

延宝年間の絵図にも描かれている道路で、経王寺の北側塀で行き止まりとなっている道路遺構も見ついている。溝に道路がぶつかる辺りの経王寺内側からは、柱跡であろう穴が検出された。絵図には描かれていないが、寺に出入りする小橋や木戸があった可能性がある。

② 宝町遺跡附属病院地区総合研究棟地点

調査面積	約 530 m ²
調査期間	2009 年 8 月 19 日～9 月 18 日
検出遺構	江戸時代から明治時代の方形石積み室、ゴミ穴 近現代の建物遺構、ゴミ穴

調査地点は大学図書館医学系分館向かいの道路をへだてた附属病院側に位置し、駐車場として利用されていた。総合研究棟建設予定地は、以前にあった地階のある病棟や工事のために予定面積の 4 分の 3 ほどがすでに攪乱されており、予定地内をとる小路で区切られた一画のみに遺構が確認された。

アスファルト下の砕石、さらに石やコンクリート片などの廃材を含む埋め土を剥ぐと、かつてあった建物のコンクリート基礎下のぐり石が現れた。この建物建築のための造成には地山と同じオレンジ色がかった粘性のある埋め土が用いられ、それ以前にあった木造建物の廃材や板ガラス、ガラス瓶などが集中して埋められた大きなゴミ穴の上をおおっていた。

低地となっていた北西部分はゴミ捨て場となっていたと考えられ、大量の陶磁器片が集中して出現した。この中から、「金沢病院賄用」と記された病院用の給食器が出土している。石川県金沢病院は明治 38 年 (1905) に小立野の現在地に新築移転となり、大正 11 年 (1922) に名称が金沢医



遺跡全景

学専門学校附属医院、大正 12 年 (1923) には改正で金沢医科大学附属医院となっている。宝町遺跡内から多種・多量に出土する「金澤醫科大學附属醫院」銘のある病院給食用食器や医療用陶磁器はここから出土しておらず、このゴミ穴の使用された時代が限られるものであることがわかった。さらに、堆積しているこの陶磁器を大量に含む黒色土には細かく砕かれた卵の殻が大量に含まれ、石灰化した大量のシジミ貝や魚の骨も出土することからは、日常の生活ゴミであることがわかる。病院内ということを考えれば、患者に提供された食事の残滓と思われる。ただし含まれる陶磁器の量は、事故で割れて廃棄される量をはるかに超えるもので、これほどまでの大量廃棄理由に疑問が残る。行平の出土が非常に多いことも特徴で、数個重ねて捨てられ上からつぶされたような割れ方をしている。病院内の他地点でも同様の行平の出土は多



いが、このゴミ穴ほどに集中して捨てられていた例は無い。

病院時代以前の遺構としては、性格のわからない石積みの遺構や長方形に深く掘られたゴミ穴があったが、柱穴などの建物遺構は見つからなかった。隣接する既調査地点では屋敷割が明確になったが、この部分からは与力町の町並みを再現することはできなかった。攪乱された層から近世陶磁器は出土するものの、隣接地点ほどの量ではない。

木造校舎時代の写真に、建設予定地はすり鉢状に周囲から低くなっているのが写っている。旧地名が「土取り場」であることと関連があるのかもしれない。

集中して出土した陶磁器

行平、碗、皿、蓋物、土瓶と食器が主であるが、ガラス薬ビンや磁器製吸飲み、円筒形脱脂綿入やタン壺といった病院関連の品もみえる。



不明の石積み遺構で、地下室とも考えられるが、貯水池や排水池の可能性もある。